

ロマン主義の思潮

19世紀前半のヨーロッパ文化を特徴づけたのはロマン主義である。

【1: 】は、文化にも大きな転換をもたらし、宮廷文化にかわって市民文化が主流となり、各国の国民文化の基礎となって、国民国家への統合を促した。

【1】と【2: 】による大陸支配の影響によって、18世紀末までのヨーロッパでは、①理性を重視する合理主義的な啓蒙思想と②古代ギリシア・ローマ文化を理想として調和を重視する古典主義が、押しつけがましく横行した。これらへの反発と、【1】が万民の自由を実現しなかったことへの反省から、19世紀前半のヨーロッパでは、②の調和より躍動を、①の理性よりも自由な感情を、普遍性より個性を重視する傾向が強まり、各民族の固有の文化や歴史・伝統や人間の情感を重視するロマン主義の傾向が盛んになった。民族の自由や独立を求めるナショナリズムの台頭を反映したものと見ることができる。戦いに関わった芸術家もいる。

ドイツ「疾風怒濤」運動（18世紀）：これは古典主義だが、既にロマン主義の萌芽がある。

- 【3: 】 Schiller 独 1759-1805 『群盗』 『群盗』主人公は失われた自由を求めて盗賊となって社会に抵抗しようとする。ちなみに、ベートーヴェンの交響曲第9番の第4楽章『歓喜の歌』の歌詞はシラーの『歓喜に寄せて』を作曲者が短くしたもの。ただし、冒頭の3行は作曲者自身の作詞。
- 【4: 】 Goethe 独 1749-1832 『若きウェルテルの悩み』『ファウスト』 後にドイツ古典主義文学を大成。川柳に「ギョエテとは 俺のことかと ゲーテ言い」とある。(oeの発音は難しい)

ロマン派の詩人

19世紀の詩人は、ほとんどがロマン主義である

- ノヴァーリス Novalis 独 1772-1801 『青い花』 初期ロマン派詩人。
- シュレーゲル兄弟 Schlegel 独 1767-1845, 1772-1829 初期ロマン派詩人。
- 【5: 】 Byron 英 1788-1824 『チャイルド=ハロルドの遍歴』 **ギリシア独立戦争に志願、病死。**《頻出》
- 【6: 】 Pushkin 露 1799-1837 『大尉の娘』（プガチョフの農民反乱を背景とする）
バイロンが賞賛した。デカブリストに共感、流刑。決闘死
- ワーズワース Wordsworth 英 1771-1850 『叙情歌語集』
- 【7: 】 Heine 独 1797-1856 『歌の本』『ドイツ冬物語』 フランス七月革命に共感してパリに亡命。
『四季の歌』3番歌詞に「愛を語るハイネのような…」 ユダヤ系革命詩人、カール=マルクスの友人。
1823年に「本を焼く者は、ついには人間を焼くようになる」（戯曲『アルマンブル』）との予言者的警告を記している。
- ホーソン Hawthorne 米 1804-1864 『緋文字』
- エマーソン Emerson 米 1803-1882 『自然論』『代表的人物』
- ホイットマン Whitman 米 1819-1892 『草の葉』

ロマン派の作家

- スタール夫人 Staël 仏 1766-1817 財務長官ネッケルの一人娘で初期フランス=ロマン派の代表。ナポレオンに迫害され亡命。
- スコット Scott 英 1771-1832 『湖上の美人』『アイヴアンホー』
- シャトブリアン Chateaubriand 仏 1768-1848 『アタラ』『ルネ』 仏ロマン主義の先駆者とされる。
- アンデルセン Andersen デンマーク 1805-1875 『即興詩人』 童話作家
- 【8: 】 Hugo 仏 1802-85 『レミゼラブル』『ノートルダム=ド=パリ』
共和主義者。第二帝政期は亡命生活。

ロマン派の音楽家

19世紀の音楽家は、ほとんどがロマン主義である

- 【9: 】 Beethoven 独 1770-1827 交響曲『運命』『田園』『第九番』
(この人はどうしても古典派である!) ≪楽聖≫古典派からロマン派への橋渡しの役を果たした
- 【10: 】 Schubert 奥 1797-1828 『未完成交響曲』『冬の旅』『美しき水車小屋の乙女』
近代歌曲の創始者。
- 【11: 】 Chopin ポーランド 1810-49 ポーランド蜂起後、『革命』を作曲 「ピアノの詩人」
- シューマン Schumann 独 1810-1856 『謝肉祭』『流浪の民』 近代ピアノ技術を開拓。
- ビゼー Bizet 仏 1838-1875 歌劇『カルメン』『アルルの女』
- ワグナー Wagner 独 1813-1883 歌劇『タンホイザー』『ニーベルンゲンの指輪』 楽劇の創始者。

ロマン派の画家

ロマン主義の画家は受験的にはこの人だけである

- 【12: 】 Delacroix 1798-1863 『民衆を率いる自由 (の女神)』 七月革命を描き躍動感が際立つ。
『シオ (キオス島) の虐殺』 オスマン帝国軍の残虐性を描く

その他重要人物

- グリム兄弟 Grimm 独 1785-1863, 1786-1859 『子どもと家庭のための童話』(グリム童話集)
ゲルマンの神話や民話・伝説を収集した言語学者。

表現と造形芸術の新展開

文学や絵画にも自然科学の影響が現れる。

- 1) 19世紀後半になるとロマン主義にかわってディケンズなど**写実主義**の思潮が広まる。社会問題が深刻化した19世紀後半の社会を反映した作品も多く創作された。社会の現実を直視し客観的に描写する【13: 】やこれをさらに推し進めた【14: 】(バルビゾン派)が台頭した。

写実主義 (人間社会をありのままに)・自然主義 (現実社会の矛盾を表現)

【15: <input type="text"/> 】 Steindhal 仏 1783-1842 《写》	『赤と黒』(赤は貴族の軍服、黒は僧服)
バルザック Balzac 仏 1799-1850 《写》	『人間喜劇』
ディケンズ Dickens 英 1812-1870 《写》	『オリバー・ツイスト』『クリスマス・キャロル』『二都物語』
コロー Corot 仏 1796-1875 画家《自》	『モルトフォンテーヌの思い出』(絵画)
【16: <input type="text"/> 】 Flaubert 仏 1821-80 《写》	『ボヴァリー夫人』 完璧な表現、頹廢文学
【17: <input type="text"/> 】 Zola 仏 1840-1902 《自》	『居酒屋』 仏 自然主義 の代表的作家! ドレフュスを弁護
モーパッサン Maupassant 仏 1850-93 《自》	『女の一生』
ゴヤ Goya 西 1746-1828 画家《自》	『1808年5月3日の処刑』、『裸体のマヤ』 革命を支持
【18: <input type="text"/> 】 Millet 仏 1814-75 《自》画家	『晩鐘』、『落穂拾い』 農民生活を描く
【19: <input type="text"/> 】 Courbet 仏 1819-77 《写》画家	『石割人夫』(ドレスデン空襲で焼失) パリコミュンに参加
ドーミエ Daumier 仏 1808-79 《写》画家	革命と共和主義を支持 世相を描いた版画
----- 帝政下の暗いロシア社会を反映 -----	
トルストイ Tolstoi 露 1828-1910 《自》	『戦争と平和』(ナポレオン軍と戦うロシアの人々を描く)
【20: <input type="text"/> 】 Dostevskii 露 1821-81 《写》	『罪と罰』(強欲な金貸しを殺し奪った金で善行を企てる青年が主人公)
トゥルゲーネフ Turgenev 露 1818-83 《自》	『猟人日記』(農奴制を批判)・『父と子』
----- 社会性高い作品を書いた北欧の作家 -----	
【21: <input type="text"/> 】 Ibsen ノルウェー 1828-1906 《自》	『人形の家』(主人公ノラのめざめと家庭からの解放描く)
ストリンドベリ Strindberg スウェーデン 1849-1912 《自》	『父』『令嬢ジュリー』 女性不信の作品

- 2) 写実主義・自然主義に反発し、善悪の価値判断を避け美だけを追求する**耽美主義**、形式を問題にせず内面性の表現を美的な質の高さで問題とする**象徴主義**の傾向も世紀末には明瞭となった。また、写実主義・自然主義の流れを汲み、外光による色彩の変化を重視し、洗練された色彩感覚を加えたフランスの**印象派**、更に後期**印象派**がうまれた。

象徴主義はこの3人

【22: <input type="text"/> 】 Baudelaire 仏 1821-67	『悪の華』 ブルジョワ社会の支配道徳に反発
メーテルリンク Maeterlinck ベルギー 1862-1949	『青い鳥』
ワイルド Oscar Wilde 英 1856-1900	『サロメ』 本書上巻No.18に関連記事

印象派

色を混合せず併置することで明るい色彩感覚を得ようとした。

【23: <input type="text"/> 】 Manet 仏 1832-1883	フランス印象派の創始者 ジャポニズムの影響受ける。
	『エミール=ゾラの肖像』……ゾラはマネを高く評価
モネ Monet 仏 1840-1926	『睡蓮』『ラ・ジャポネーズ』 <u>モネの『印象・日の出』の作品名から印象派と呼ばれた!</u>
ドガ Degas 仏 1834-1917	『踊子』
【24: <input type="text"/> 】 Renoir 仏 1841-1919	女性の裸像・入浴姿が得意。風景画も。
	『ムーラン=ド=ラ=ギャレット』(1876)は時代の雰囲気をよく写している。上流階級の特権だった旅行が大衆化しつつあった。海水浴、競馬、自転車、ピクニックも同様。モネやルノワールも余暇や娯楽に興じる市民を描いている。

後期印象派

セザンヌ Cezanne 仏 1839-1906	風景・静物
【25: <input type="text"/> 】 Gogh 蘭 1853-1890	『糸杉』、『向日葵』
【26: <input type="text"/> 】 Gauguin 仏 1848-1903	『タヒチの女』 タヒチに移住

国民楽派 19世紀の音楽家だがロマン主義に入れてはいけない!

ムソルグスキー Musorgskii 露 1839-81	『ボリス=ゴドゥノフ』『禿山の一夜』
スメタナ Smetana チェコ 1824-84	『わが祖国』チェコ国民楽派の祖
【27: <input type="text"/> 】 Chaikovskii 露 1840-1893	『白鳥の湖』『悲愴』

ドビュッシー Debussy 仏 1862-1918 『牧神の午後への前奏曲』 ロマン主義を超える**印象派音楽**を創始

【28: 】 Rodin 仏 1840-1917 『考える人』 近代彫刻を開拓した。

【29: 】 Schönberg 奥 1874-1951 『グレの歌』『浄められた夜』 後期ロマン主義音楽。

20世紀現代音楽の創始者とされる

19世紀末の**アール=ヌーヴォー**(新芸術)と呼ばれる傾向はあらゆる分野に及んだ。

ガラス工芸のエミール=ガレ Emile Gallé 仏 1846-1904、画家のクリムト Klimt 奥 1862- 1918 などが有名。